

## 16 プリシード・プロシードモデルを応用した歯科口腔衛生指導の取り組み —小学生の朝食および間食摂取の実態—

○小野真奈美<sup>1</sup>, 木暮ミカ<sup>2</sup>, 本間和代<sup>1</sup>, 木戸真紗美<sup>1</sup>, 佐藤裕子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>明倫短期大学 歯科衛生士学科, <sup>2</sup>明倫短期大学 歯科技工士学科

keywords: プリシード・プロシードモデル, 歯科口腔衛生指導, 食生活アンケート

### はじめに

本学では、プリシード・プロシードモデルを用いて、小学生を対象に歯科口腔衛生指導を実施している。今回、プリシード部分の行動・環境診断を応用し、小学生の朝食および間食摂取の実態について調査し、指導プログラムの検証と今後の課題について検討した。

### 対象および方法

新潟市立真砂小学校に在籍する全校児童425名のうち409名を対象に、平成21年11月12日にプリシード部分の行動・環境診断を応用し、食生活アンケートを実施した。間食として摂取する頻度の高いおやつ・飲み物をそれぞれ3つと、選択肢から調査実施日のメニューを選んでもらい朝食摂取状況を調査した。以上から得られた資料を学年別に正規近似式と、少数例の比率検定を行った。

### 結果および考察

#### 1. 間食

低学年ではおやつとして果物を摂取している児童が中・高学年に比べ有意に高かった ( $P=0.05, 0.01$ )。また、学年が上がるほどスナック菓子を摂取する頻度が高かった ( $P=0.002-0.003$ )。これは、低学年では家族の意思でおやつの種類が決められているが、高学年になるにつれ自分の嗜好に合わせておやつの種類を選択し摂取しているためではないかと思われる。飲み物では、学年間で有意な差はみられなかった。7割以上の児童がお茶を頻繁に摂取し、3割以上の児童が牛乳を摂取していることが分かった。

#### 2. 朝食

朝食の食品摂取状況は、どの学年においてもごはん・パン・味噌汁の摂取頻度が高かった。一方で、

全体の8.4%の児童が朝食におかしや栄養補助食品を摂取していることも分かった。朝食欠食者は、調査実施日だけ食べなかった児童は1年生で1名、毎日食べないと答えた児童は3年生で1名、4年生で2名であった。新潟市食育推進計画基礎データによると、新潟市の小学生の朝食欠食率は3.4%と報告されていることから真砂小学校における朝食欠食率は有意に低いことが分かった ( $p=0.01$ )。



図1 歯科口腔衛生指導実習風景

### まとめ

以上より、プリシード・プロシードモデルを応用した歯科口腔衛生指導において、小学生の食生活の実態を把握し問題点を明確にすることができた。今後は、低学年では強化因子である周囲のサポートとして、家族へ更なる歯科口腔衛生指導を実施し、子どもの歯や口腔はもちろん食生活や生活習慣に関心をもたせることが必要である。中・高学年では、食習慣の自立期へと移行していくことから、実施段階である歯科口腔衛生指導において、児童自身の意識や生活行動の変容に役立つような講話の内容設定や媒体作製が必要であると思われる。